

職場における交通安全指導 Part.25

二輪車の特性と交通事故防止策

前回より「交通弱者に対する事故防止策」について掲載していますが、今回は、「二輪車の特性と交通事故防止策」を掲載しますので、社内の運転者教育等にご活用ください。

...二輪車の特性と交通事故防止策

年々二輪車の利用台数は増加し、老若男女を問わず多くの人に利用されています。

二輪車は小回りが効くなど便利な反面、事故の相手側となりやすく、しかも事故の際は、衝撃を直接身体に受けるため深刻な事態に陥りやすいものです。

そんな対二輪車との事故を防止するためには、二輪車の行動特性を運転者に周知させるとともに、思いやり・譲り合いの気持ちで運転することを指導してください。

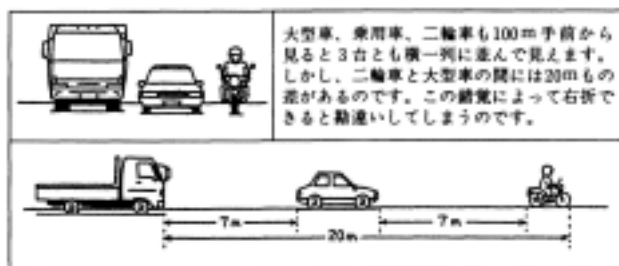
二輪車の特性

二輪車の特性として、次の点があげられます。

(1) 車体が小さいことによる特性

死角に入りやすい。後続車の陰や左後部の死角に入って見えないことがあり、左折時の巻き込み事故の原因になる。

小さいために遠くにいと見られたり、また速度を遅く感じられたりするので、交差点などに接近していても、まだ間に合うと判断され、右折を始めた車と衝突する。



(2) 走行上の特性

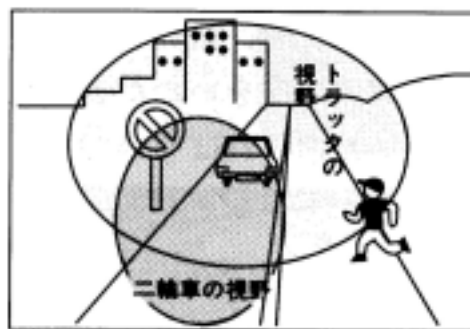
路面の影響を受けやすい。路面のちょっとした凹凸でハンドルをとられやすく、また、雨、雪、凍結等の路面状態の変化にも弱い。

道路の左端を走行することが多い。左端には駐車車両や障害物や路面の凹凸があるため、急に進路を変えてくる。また、この時バランスを崩しふらついたり、転倒したりして他車と接触する。

発進時や停止時にバランスを崩すことがある。二輪車は発進、停止の際にバランスを崩しやすいために、ライダーは一時停止を嫌がる傾向にある。そのため中小の交差点や路地では一時停止を怠り、出合頭事故の原因となる。

四輪車と比較して視界が狭く、路面を見て走行することが多い。二輪車の方が周囲がよく見えるように思われがちだが、ライダーは近くの路面を見つめて走っており、遠方や横方向への注意に欠けるといった特性がある。

したがって、交差点などで二輪車が接近してきた場合、ライダーは自車に気付いていないこともある。



ライダーのテクニックに左右されやすい。カーブ走行やプレ・キングはライダーの技量によって大きな差がでることから、カーブを曲がりきれずに対向車線へはみ出し、正面衝突事故を起こす。

(3) ライダーの特性(若年者)

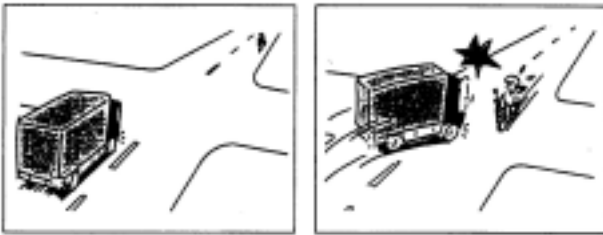
二輪ドライバーの約3人に1人は、24才以下の若年者です。この若年ドライバーの特性(傾向)としては、次の点があげられます。

- わずかなスペースでも突っ込んでくる。
- カーブなどで無謀なスピードで進入してくる。
- 交通ルールを無視した運転をする。

二輪車との事故を防ぐポイント

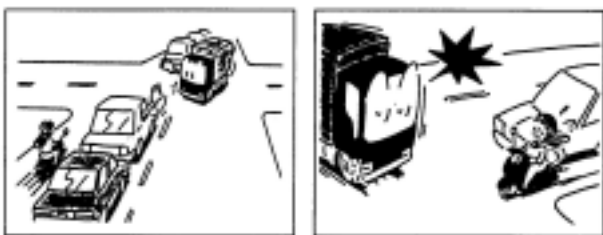
(1) 交差点等で二輪車が接近している時は、その通過を待つ。

二輪車のスピードは予想以上に速いものです。右折時は、直進二輪車を見落とさないことは勿論、相手のスピードを低くみて強引に右折しないこと。



小さな二輪車のスピードは遅く感じやすい

また、対向車が道を譲ってくれた時は、対向車の陰に二輪車がいるものと思い、自分の目で安全を確認し、一気に右折しないこと。



「ありがとう」の感謝の気持ちだけでなく、死角部分の安全確認の習慣をつける

(2) 左折時は、左側方と左後方の二輪車の有無を確認する。

二輪車は死角に入りやすいので、自分の死角に二輪車がいるかもしれないと思って、直接自分の目で確認し、ゆっくりとハンドルをきって左折すること。

方向指示器を出しているからといって、無造作に左折すると、側面衝突を招いたりする。



必ず、左側に二輪車がないことを確認してから左折開始

(3) 車線変更時にも、後方の二輪車の有無を確認する。

二輪車は、四輪車と違って前傾姿勢をとる関係上、左右・前方が十分に見渡せず、必要な情報を見落とすことが多い。どんなに簡易な車線変更であっても、方向指示器を出しているから当然見ていると思い込まず、必ず二輪車の存在、動向を確認した上で、車線変更等を行うよう心掛ける。

(4) 左端を走行する二輪車は、駐車車両等の障害物の回避のために急に進路を変更することがあるので注意する。前述のように、二輪車の進路変更は予測しにくく、常にふらつきや転倒等が起こり得るということを念頭におき、真後ろを追従したり、すぐ横を並進したりしないようにする。

(5) 若年ライダーを見たら近づかないようにする。追いついてきたら、先に行かせること。

二輪車には必ず一定の距離を置き、無理をせずに譲るつもりで運転する。後ろに二輪車を確認した場合には、バックミラー等で動向を見極め、先に行かせるように心掛ける。

以上、二輪車の特性と事故を防ぐポイントについて述べてきましたが、二輪車との事故は、わずかな接触であっても死亡事故などの大きな人身事故に繋がります。大きな車体であるトラックは、この特性を十二分に理解するとともに、その存在に気を配って、安全運転に努めてください。また、交差点とその付近およびカーブ等は、対二輪車事故の多発地点であることも念頭におき、その地点ではより一層慎重な運転を心掛けてください。